

ABS関数

使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

ABS関数の「役割」と基本構文

ABS関数の「役割」と基本構文

ABS（アブソリュート）関数は、数値からマイナス記号（-）を取り除き、すべて「プラスの数値（絶対値）」に変換する関数です。

=ABS(数値)

引数	内容
数値	絶対値にしたいセルや数値（例：A1, -100）

変換のイメージ：

- 100 → 100（そのまま）
- -100 → 100（マイナスが消える）
- 0 → 0（そのまま）

 **ポイント：**「プラスかマイナスか」という情報を捨てて、「0からどれだけ離れているか（大きさ）」だけを知りたい時に使います。

【実践①】 マイナス入力を一括修正する

【実践①】 マイナス入力を一括修正する

会計システムやCSVデータから取り込んだ際、売上金額などが誤って「マイナス」で表示されてしまうことがあります。ABS関数を使えば、一瞬で正しい「プラスの金額」に修正できます。

シナリオ： A列に「-1,000」「-500」といったデータがある。これをB列でプラス表示させたい。

数式： `=ABS(A1)`

手順：

1. B1セルに数式を入力
2. オートフィルでデータ入力されている行まで数式をコピー
3. 必要に応じて、B列に表示された結果を「値貼り付け」でA列に上書きする

【実践②】 目標との「ズレ（誤差）」を計算する

【実践②】 目標との「ズレ（誤差）」を計算する

ABS関数の真骨頂は、「予実管理（予測と実績の比較）」です。単純な引き算だと、「プラスの誤差」と「マイナスの誤差」が相殺されてしまい、合計した時に「ズレの総量」がわからなくなります。

シナリオ：「目標」と「実績」の差（乖離幅）を、プラスマイナス関係なく知りたい。

項目	A 目標	B 実績	C 単純な差 (B-A)	D 絶対値の差 =ABS(B-A)
商品X	100	90	-10	10
商品Y	100	110	+10	10
合計	200	200	0 (ズレなし?)	20 (合計20のズレ!)

 **解説:** C列(単純な差)を合計すると「0」になり、「計画通り完璧だった」と誤解してしまいます。D列のようにABS関数で「ズレの大きさ」を出して合計することで、「全体でどれくらいの誤差が生じたか(予測精度)」を正しく評価できます。

「ズレの

【応用】

条件付き書式で「大きなズレ」を目立たせる

【応用】条件付き書式で「大きなズレ」を目立たせる

ABS関数は、条件付き書式のルールとしても非常に優秀です。「上振れ」でも「下振れ」でも、とにかく「一定以上ズレている異常値」を一発で発見できます。

シナリオ： 前月比のズレが「±10%」を超えたセルを赤くしたい。

手順：

1. 対象の範囲を選択
2. **[条件付き書式] > [ルールの管理]**から**[新規ルール]** > **ルールの種類**から**[数式を使用して…]**を選択
3. 以下の数式を入力

数式： `=ABS(変動率セル) >= 0.1`

解説： 「`>= 0.1` (10%以上)」と「`<= -0.1` (-10%以下)」の2つのルールを作る必要はありません。ABS関数を使えば、「0.1以上（絶対値）」という1つのルールですべてカバーできます。

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。